

## 国際協力特別賞

# レモネードスタンドの活動を振り返って

上尾市立上尾中学校 2年 甘浦 旬

私は上尾の夏祭りの時にレモネードスタンドの活動をしました。

レモネードスタンド活動とはレモネードを作って売り、得たお金を小児がん支援のための寄付をする活動です。レモネードスタンド活動はアメリカから始まったと言われていました。レモンと砂糖と水があればレモネードが作れます。アメリカでは夏になると子ども達がレモネードを作って売る「レモネードスタンド」をあちこちで見かけられるそうです。子ども達のおこづかい稼ぎとして定着しているらしいです。これを利用して、アメリカのある小児がんの患者の少女が小児がん支援のために多額の寄付を集めました。これがアメリカ全土に広がり、このような活動が普及していきました。

日本では年間約2000人の子どものがかかっている小児がん。しかし、日本では、小児がんの治療方法を開発したり、患者を支援するためにあてられている予算がアメリカやヨーロッパに比べて少ないのが現状です。そのため、小児がん支援のしくみづくりが他国よりも遅れています。医療先進国のイメージがある日本ですが、小児がんをとりまく実情は違うのです。

このような課題への対応として日本でも、レモネードスタンド活動が広まってきました。

ここ数年コロナで夏祭りが行われませんでしたでしたが今年は行われ、その中でレモネードスタンド活動を行うことになりました。久しぶりの夏祭りということもあり、レモネードスタンドに訪れる人がたくさんいました。その中で僕は主に接客をしていました。中には小児がんのことを知ってくれて500円や1000円などたくさんのお金を寄付してくれました。友達といっしょに約3時間程、接客をしていたおかげで、寄付金は約10万円も集めることができました。

実は僕には幼い頃、仲が良かった友達が小児がんにかかってしまい、亡くなってしまったことがあります。当時の僕は何で亡くなったのかが分かっていませんでした。しかし、この活動を通じて友達の死因を知り、それが小児がんであることが分かり、おどろき、悲しい気持ちになりました。そのようなことが少しでもなくなるように今回の寄付金を使ってほしいと思いました。

日本はもちろん世界でもこのようなことが行っています。それを少しでもなくせるように僕はこれからもレモネードスタンド活動などの活動をやっていきます。